

本日は大恩師さまの今年最後の月の命日でございます、非常にご縁のある尊い供養会でございます。

大恩師さまは、会主さまとともに両輪のごとくご修行をされていたわけですが、私たちは直接大恩師さまとはお会いしてないものですから、なかなか大恩師さまの事を思いなさいと言っても難しいと思います。

母からは大恩師さまの事を本当に素晴らしい方で、とても人情があるお方でしたと聞いたことがあります。

大恩師さまのお姿を通して会主さまからは「通常の生活の中で法を活かす」という事を私に教えて下さいました。

「おたすきお数珠をしている時には立派な人間になって、取った時には普通の人間に戻ってはいけません。朝夕お経を上げている時も大切ですけれども、それ以外の普段の生活の中でも教えを活かす事が大切です」とご指導を頂いております。

会主さまの教えを頂いている私たちは、大恩師さまや会主さまの様に、妙智會の会員ではない人からも好かれる様な人にならなければいけないのです。

大恩師さまの様な素晴らしい人間味のある男性になる、会主さまの様な素晴らしい人間味のある女性になる事が肝要でして、

お導きをする時にも一番大事なのほそこなのです。

人というのは教えを伝えるその人自身の、人柄を重要視しているという事なのです。

私たちは人を導く時には「見られている」という事を十二分に承知しながら、素晴らしい人間味を持ってお話をする事をしっかりと受け止めなければなりません。

私たちは、直接大恩師さまにお会いした事はありませんが、大導師さまは「大恩師さまのために生きる」とお誓いをされたわけでありまして、大導師さまのあの笑顔は、直接私も会っていない大恩師さまの笑顔であり、心であり肉体だと私は今日まで信じています。

あの大導師さまのお姿と、お心を通して、大恩師さまの事を私たちは知っているはずなのです。

あの素敵な大導師さまの、あの笑顔をもう一度思い出す事が大恩師さまの事を思い出す事になるという事を、今日は霊界から皆さんへしっかりとお伝えして下さいと頂きましたので、お話をさせて頂きました。

今年はまだ2週間もあります。

どうぞ、もう一度振り返って改めるものは改めて、感謝するものは感謝して修行をしていってください。